

第3回登別市立図書館移転推進委員会 議事録

開催概要

日時 令和8年7月29日(水)18:00～19:30

場所 市民会館2階 小会議室

1 開会

委員長が進行

2 委員会の成立報告

半数以上の委員の出席を確認

3 振り返り

別紙資料により教育部図書館が説明

(主な説明内容)

移転後の図書館について具体的なコンセプトの検討を行った。

○前回委員会の主な意見について

- ・ 多様な障がいのある方々が楽しく安心して図書館を訪れる環境整備について
- ・ 図書館以外の目的で来館した方も図書館を利用したくなるような魅力的な空間づくりについて
- ・ 静かなスペースと読み聞かせ対応スペースの確保やゾーニングについて
- ・ 災害対策と利用者の安全確保について

なお、耐震性については、アーニスが平成6年建築で新耐震基準に適合していることを確認するとともに、床荷重も含めた安全性を考慮した設計について意見書に記載することも可能である旨共有。

- ・ 開架図書8万冊を目標とする意見や、豊かな言葉を育むための十分な蔵書を備えた図書館整備の必要性について

○コンセプト案について

案1(委員長作成案)

「つながる図書館」をコンセプトに、「みんなが使いやすい図書館」「好奇心をくすぐる本の配置」「多様なイベントの実施」「空間デザイン機能」を基本とした図書館作りを目指す案。

案2(委員作成案)

「登別市立図書館のめざすもの」をベースに作成し、「インクルーシブな交流拠点」「学びと成長を育む創造拠点」「地域文化のアーカイブ拠点」の3点を柱とする案。

4 報告

プロポーザルの実施結果について

令和8年7月15日にプロポーザルが実施され、株式会社 創建社が受託候補者に決定し、8月中旬から下旬にかけて契約手続きを進める予定である旨報告。

併せて、次回委員会から受託事業者が参加し、委員との意見交換を行う予定である旨説明。

5 協議

(1)コンセプトについて

前回から引き続いて2案をベースにコンセプトについて協議

【委員 F】

- ・ 「つながる図書館」は30年ほど前から使われ続けている表現で、新鮮味や独自性に欠ける。
- ・ 最近の図書館では、「シビックプライド」を意識した、まちの魅力を高めるコンセプトが増えている。
- ・ 「つながる図書館」を否定するわけではないが、「この図書館があるからこのまちに住みたい」と思われるような攻めた表現を検討してみてはどうか。
- ・ 案2は、過去のデザインプランや過去の意見や提案内容を土台としつつ、独自の知見を加えて整理されている。また、引用されている数値や考え方は、「公立図書館の任務と目標」や設置基準などの根拠に基づいており、信頼性があると思われる。

【委員 E】

- ・ 「つながる図書館」というコンセプトはやや抽象的であり、登別らしさを打ち出した特徴あるコンセプトにした方がよい。
- ・ 剣淵町の絵本に特化した図書館のように、特色を明確にすることが成功につながるのではないか。
- ・ 市民アンケートからは、学生や子どもの居場所・スペースを重視するニーズが見られるが、「きらん」のような施設を単にまねるのではなく、温泉や鬼など、地域資源を取り入れ、登別ならではの魅力を生かすべきではないか。
- ・ 図書館としての成果と、コミュニティの場としての成果は異なるため、目指す姿を整理する必要がある利用者数の増加だけでなく、貸出冊数など社会教育施設としての役割とのバランスも考慮すべきではないか。
- ・ 郷土資料を充実させたい一方で、限られた図書館スペースに収めることは難しいのではないか。
- ・ 防災の観点も考慮し、基本的な郷土資料は新庁舎の議会図書室のような場所に分散配置することも考えられるのではないか。

【委員 C】

- ・ 限られた予算の中では、実現できる内容にも制約があることから、委員提案のコンセプトは優れているが、すべてを実現するのは現実的には難しいのではないか。
- ・ 実現可能性を踏まえた、現実的な計画・コンセプトづくりが必要だと考える。

【委員 D】

- ・ 商業施設内の図書館では、貸出冊数だけでなく、交流や知見を広げる場としての役割も重視すべき。
- ・ 障がいのある方への対応は、設備整備だけでは十分ではなく、多様なニーズに応じた人的サポートが重要であり、「安心して利用できる」「ここに行きたい」と思われる図書館づくりや人の育成が重要ではないか。
- ・ 障がいのある方への配慮や支援を特色の一つとすることも有効ではないか。

【委員長】

- ・ 誰もが利用しやすい図書館づくりを基本とすることが重要。
 - ・ 読書に集中したい人、交流を楽しみたい人、学習する学生など、多様な利用者に対応できる空間づくりが必要。
 - ・ 静かな読書空間と交流・学習スペースのバランスに配慮すべき。
 - ・ コンセプトだけでなく、必要な機能やエリア構成も含めて今後検討を進める。
 - ・ コンセプトについて、案2をベースとすることと考えてよいか。
- ⇒ 意見等なし。案2をコンセプトのベースを確認。

【委員 H】

- ・ 案2のコンセプトについて評価できるが、すべてを「拠点」と位置付けるのは、アーニスという限られたスペースでは現実的に難しいと感じる。
- ・ 「拠点」という表現にこだわるよりも、登別らしさに特化したコンセプトへ絞り込む方がよいのではないか。
- ・ コンセプトは機能やエリア構成と整合させる必要があり、文言だけを変更すればよいものではない。
- ・ 「拠点」を実現するには人員や運営体制なども必要となるため、将来的な運営を考えると実現は簡単ではない。

【委員 F】

- ・ 「人と人がつながる」「人と本がにつながる」という考え方だけでなく、図書館には「つながれない人」の居場所としての役割もある。
- ・ 図書館には、社会とのつながりにくさを感じている人も訪れることから、図書館は文教施設であると同時に、福祉的役割を持つセーフティネットでもあったと考えられる。
- ・ 「すべての市民に居場所を提供する」というコンセプトは重要であり、誰でも無料で安心して過ごせる場所としての機能を大切にすべき。
- ・ 開放的で交流を促す空間だけでなく、あえて人目を避けられる場所や落ち着いて過ごせる空間も必要であり、「つながる図書館」や「コミュニティ拠点」を強調しすぎると、孤立している人や静かに利用したい人が置き去りになる可能性がある。
- ・ にぎやかさを追求するのではなく、多様な利用者の居場所となる、奥行きのある図書館づくりが必要ではないか。

【委員 E】

- ・ 図書館の役割を考えることは非常に難しく、多様な利用者への対応が必要である。
- ・ いじめを受けた子どもへ「図書館において」という考え方のように、図書館は安心して過ごせる居場所としての役割を持つ。
- ・ 一人になりたい人のために、あえて視線を避けられる場所や安全に過ごせるスペースを設けることも重要である一方で、限られたスペースの中で、居場所づくりと必要な機能を両立するゾーニングが課題となる。
- ・ 商業施設内に移転する利点を生かし、現図書館では難しかった障がいのある方への対応やバリアフリーに特化した図書館づくりも可能ではないか。「誰も排除しない、全国でも先進的なバリアフリー図書館」として特色を出すことで話題性や独自性につながる可能性があるのではないか。
- ・ 障がいへの理解を深め、市民が支援できる環境やボランティア意識を育てる取組も重要との意見。

【図書館長】

- ・ 「つながる図書館」は、人と人をつなぐだけでなく、人と情報をつなぐ役割も含んでいる。

- ・ 利用者の背景に関わらず、「ここにいていい」と思える居場所、居心地のよい空間を提供したい。
- ・ 図書館で本や人との偶然の出会いが生まれ、共感・共鳴を通じて次の行動につながる可能性があり、また、孤独や困難を抱える人が「自分は一人ではない」と感じられる場所にもなり得る。
- ・ 多様な価値観や事情を持つ人を受け入れるためには、施設だけでなく、職員の姿勢や「排除しない」という意識が重要。
- ・ 完成時点ですべてを実現することは難しいが、将来より良い図書館へ発展していくためのスタートラインとなる図書館を目指したい。
- ・ 提案された機能や考え方はすべて重要だが、予算・スペースの制約から取捨選択や優先順位付けが必要であることから実現可能な範囲で何を残し、何を大切にすることを今後検討していくことが重要。

【委員 A】

- ・ 機能とエリアについて挙げた項目は、図書館として必要な最低限の機能を抽出したものであり1,500 m²という限られた規模の中で配置することは難しいが、不要な機能を盛り込んだものではない。提案した内容は、図書館として必要不可欠な役割を果たすための基本的な要素であるとの理解していただきたい。

【委員 E】

- ・ スペースや機能だけでなく、利用者が安心して利用できる動線づくりも重要であり、過去に別の協議会で意見のあった、商業施設を通らずに直接図書館へ入れる出入口を設けたらどうか。
- ・ 商業施設内を通ることで、周囲から「学校に行っていないのでは」「ハローワークに行っているのでは」など、利用者が見られることを気にしてしまう可能性がある。
- ・ 誰にも気兼ねせず、本を利用するためだけに来館し、安心して帰れる環境が必要。
- ・ アーニスには既存の出入口があるため、観光経済部側へ直接つながる階段などを明るく整備し、図書館専用の入口として活用してはどうか。

【委員 A】

- ・ お話会用スペースの必要性や規模について、子どもが遊べる、多少声を出せる、動き回れるような「動の空間」へのニーズがある一方で、1,500 m²という限られた面積の中で、そのようなスペースを確保することは難しい。
- ・ お話会コーナーを交流や活動の場として位置付ける場合、必要な広さをどの程度確保するかが課題であり、スペースを広げる場合、他の機能をどこまで縮小するかという優先順位の検討が必要だと考える。

【委員C】

- ・ 漫画喫茶のような仕切られた個別スペースがあると、利用者が一人で落ち着いて過ごせる時間を確保でき、周囲を気にせず読書や調べものができる環境も必要ではないか。
- ・ 理想としては、コーヒーを飲みながら本を読める喫茶店のような雰囲気の空間があるとよい。
- ・ 読書だけでなく、滞在そのものを楽しめる居心地のよい場所づくりを求める。

【委員 D】

- ・ 図書館エリアだけですべての機能を完結させるのではなく、商業施設との連携も視野に入れるべき。
- ・ アーニスには多様な利用者が訪れており、商業施設側としても見守りや配慮は行っている。
- ・ 図書館ですべての機能を抱え込むのではなく、商業施設と役割分担をしながら空間や機能を検討することが重要ではないか。

【委員 H】

- ・ 提案されている多くの機能を盛り込めると理想的だが、物理的なスペースには大きな制約がある。
- ・ 過去に図書館の時計が壊れた際、子どもたちが自然に帰宅時間を意識できるような時計を整備した経験があり、その経験から、図書館運営では単に声をかけたり案内したりするのではなく、利用者が自然に気づき、感じられる環境づくりが重要だと感じた。
- ・ 現図書館は職員や関係者の思いが込められて運営されている一方、市民全体の利用率が低いことが課題である。

- ・ 新図書館では、多くの機能を詰め込むだけでなく、市民がどのように受け入れるかを考えた施設づくりが必要であり、「登別らしさ」や「市民にとって大切なもの」を優先して機能を整備していくべきではないか。
- ・ 必要な機能を整理して議論の土台に載せることは重要であり、その中から優先順位をつけて実現可能なものを選択していくことが望ましい。
- ・ 利用者に押し付けるのではなく、利用者自身が自然に気づき、選択できるような図書館づくりを目指すべき。

【委員長】

- ・ これまでの議論で出された機能・エリアに関する意見は、大きく以下の 3 つの視点で整理できる。

1 環境について

- ・ 身体的な障がいだけでなく、多様な利用者に対応した環境整備が必要。
- ・ 明るさ、音、室内環境への配慮が必要。
- ・ 避難経路など、安全性の確保も重要。

2 交流・居場所づくりについて

- ・ 大人が読書をしながら子どもを見守れる空間が必要。
- ・ 子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりが必要。
- ・ 市民が交流できる場としての機能も重要。

3 地域づくりについて

- ・ 郷土資料の保存・活用、デジタル化、データベース化が必要。
- ・ 市民が集まり、共に学ぶことができる場の創出が求められる。

上記3点については、今後作成する意見書に盛り込む方向で整理する。

また、委員から提示された「機能とエリア」についても、意見書のベースとして取り入れ、委員から出された意見を基に、次回までに意見書の素案を作成し、確認していただきたい。

なお、提案内容は、予算やスペースの制約により調整・削減される可能性があるが、環境面など、これまでの議論で繰り返し重要性が指摘された事項については、必ず反映されるよう求めている。

【委員 E】

- ・ 一人になれるスペースと学習スペースは、限られた面積の中で集約して整備することも考えられる。
- ・ 学習や個人利用のスペースには、パソコン・タブレット利用を考慮し、十分な数のコンセントを設置してほしい。
- ・ 実体験として、図書館ではコンセント付きの席が人気で不足していたことから、現代の利用環境として電源設備の充実が必要だと考える。
- ・ 子どもの学習、交通の待合、にぎわい創出などの役割だけでなく、静かに一人で過ごしたい人への配慮も忘れないでほしい。
- ・ 新図書館は、商業施設、市民、行政の三者それぞれにとって価値のある施設を目指してもらいたい。
- ・ 図書館はコミュニティの場であるだけでなく、教育・文化施設として、本に親しむ機能を大切に、利用者数や交流機能だけでなく、貸出冊数の向上も目標として考えてもらいたい。
- ・ 約 14 万冊の蔵書のうち、約 8 万冊を開架、残り約 6 万冊を閉架とする案について、閉架資料をアーニス内(1階等)に配置できるか確認したい。
⇒アーニス1階部分にはスペースはない。(アーニス関係者)
- ・ 閉架資料の配置や移動図書館「こぐま号」の設置スペースについても確保が必要
- ・ 開架冊数 8 万冊については異論はないが、残り約 6 万冊の閉架資料をどこに配置するのか、保管スペースの確保が課題だと考える。
- ・ 現在 3 回目の委員会であるが、選定された事業者がいつから参加する予定なのか確認したい。
⇒次回(第 4 回)から参加していただけるように、契約等を進めたい。
- ・ 移転先フロアのアスベスト含有状況について、1 階部分は含有なしを確認済みだが、移転予定フロアについては調査予定となっている。今後の調査でアスベストが発見された場合、追加工事費の発生や工期延長につながる可能性があるのか。

⇒それらの調査や追加工事も含め、計画内に収まるように進めていきたい。

6 その他

- ・ 第1回新登別市立新図書館基本構想検討委員会の開催について情報共有
- ・ 構想検討委員会の設置目的や今後のスケジュールについて、委員間で情報共有を行った。
- ・ 北海道武蔵女子短期大学教養学科の河村芳行教授へ、アドバイザー就任の依頼を行っている。
- ・ 基本構想検討委員会の次回開催時期は未定。
- ・ 今後、移転推進委員会での協議内容や、アーニス移転後の実際の運営で得られる成果・課題を検証する。
- ・ 検証結果を今後の計画策定へ反映していく予定。
- ・ 次回の開催日程について令和8年8月26日水曜日を想定
⇒意見等なし

【委員 E】

- ・ 配付資料については、事前に送付していただきたい。
⇒事前に配付できるように準備したい。(事務局)

閉会

19時30分 閉会

以上